



《発行所》

青山同窓会
〒951-8127 新潟市関屋下川原町 2-635
新潟県立新潟高等学校内
TEL 025-266-5268
FAX 025-266-5268

《編集・発行人》
長谷川 義明

《印刷所》
オリオン印刷株式会社
〒950-0963 新潟市南出来島1-19-1
TEL 025-283-2151
FAX 025-283-3804

ご挨拶

会長 長谷川 義明 (61回)



二〇〇五年の新春を迎え青山同窓会会員の皆様にはいかがが過ぎいでいらつしやいましょうか。昨年一年は酷暑、台風、洪水、大地震と実に相次いで大災害に見舞われた一年でありましたがお健やかに過ごしたと願っております。

地震災害の影響は生活基盤の建て直し迫られている人々をはじめ生産設備の損壊による打撃や観光産業などにおける風評被害など二次的、三次的影響も含めて大変甚大なものであります。然しなんとでも立ち直つていかなければなりません。若い知事にも大いに活躍していただかなければならないと思ひます。青山同窓生は、新潟の地域社会の中で各分野に指導的立場、あるいは中心的役割を背負って活躍しておられる方々が多いのですから、同窓生の皆さんの大いなる力を發揮していただくたいと思ひます。

昨年の同窓会の活動としては、夏の総会でお認め頂いた母校のグラウンドの照明工事が完了し、早速現役の運動部の練習などに活用されております。また

同窓会主催としてはじめて開催した「青山学術文化講演会」では、新潟大学教授で第69回卒業の小林昌二氏による沼垂の柵の所在地をめぐる新潟の古代の姿についての興味深いお話、元環境庁職員で宮内庁庭園課長や南極探検隊員も経験された第73回卒業の渡辺忠明氏による環境保全と経済発展に関する共生の事例も含めたお話などがあり、歴史と将来、について大きな示唆をあたえていただきました。さらに第97回卒業の岡村知子氏によるインド舞踊のパフォーマンスもありましたが、単身インドに渡り南インドの古典舞踊を学ばれ公開して演ずる資格を取得されて帰国し、新潟を中心に活躍しておられるとのこと。激しくも幽玄な舞踊に感動を覚えました。まさに多士済々の同窓生たちと心強く思ひます。同窓生をはじめ一般の方々も来場されましたが本年も素晴らしい同窓生たちの活躍ぶりが紹介できるような企画を提案したいものと思ひます。

合併時マニフェスト

新潟市長 篠田 昭(75回)



青山の皆さま、新年明けましておめでとございませう。昨年は7・13水害や中越地震で大変な災害の年となりました。新潟市役所は談合問題で市民の皆さまに大変なご迷惑をお掛けし、申し訳なく思っております。

思ひます。新春交流会でも同窓生による音楽などの楽しい演奏も行われるようになりまし。同窓会の集いがさらに充実し楽しいものになることを願っております。皆様のご健勝、ご多幸の年でありますよう祈念申し上げます。

青山同窓会新年会のお知らせ

幹事長 小崎 弘一

昨年は新潟市長篠田昭さん(75回)のお話と、瀬野倫夫さん(77回)のアルゼンチンタンゴとフォルクローレの演奏で始まりました。181名という多くの方々の参加をいただき、おおいに盛り上がりまし。今年には君英夫さん(67回)トリオの、ジャズ演奏をお楽しみいただき、座る席をできるだけ多く用意したいと思っております。開催要領は下記のとおりです。各期幹事の皆様からも連絡していただきますが、参加を希望される方は事務局までご一報ください。

日時：平成 17 年 2 月 18 日 (金) 18:15
会場：新潟グランドホテル TEL 025-228-6111
会費：5,000 円

君英夫トリオのご紹介

ピアノ 君 英夫 (67 回)
ベース (ウッドベース) 前田 和夫 (79 回)
ドラムス 長谷川道夫 (75 回)

二度とこのようなことが起きないよう体質の抜本改革と具体的改善策を立て、大ピンチをチャンスに結びつけるよう頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

新潟地域の合併協議は、おかげさまで全国に誇れる内容になったと自負しております。中でも任意の合併協議会の段階で二百七十人を超す議員が七十八人となる定数特例を十二市町村議員にお認めいただいたこと、十二市町村長が合併と同時に

に失職する大決断をいただいたことに深く感謝しております。一般職員については十年で五百人を適正化することなども含め、合併の行財政効率効果がいかに大きいかを明示できたと考えています。

また、合併協議では新市の理念と方向を明確にしようと努めて参りました。農業者が七十八万都市の恵みを受け、生活者は田園と農業の恵みを受ける互恵型社会づくりを目指す「田園政令市」の考えや、コミュニティを大切にして自立度の高い社会づくりを志向する「分権型政令市」の目標を掲げたのもその気持ちの表れです。政令市になれば小中学校の教員の採用や任免権も原則として持つことができます。その時に備えて新潟市の教育の基本理念や方針を示す「教育ビジョン」も来年度までに策定いたします。

ただ、合併へのカウントダウンが始まっておりますこの時点でも、七十八万市民が新市の方向や将来像を共有しているレベルには至っていないと思います。

編入合併をお願いした立場としては、さらに新市の理念や目標を明確にし、それを実現する具体的政策や施策を合併時に七十八万市民に提示する必要があります。

あると考えます。できるだけ数値目標を入れ、政令市へ進む準備作業を織り込んだ十七年度工程表も添えれば、新・新潟市の「ローカル・マニフェスト」に仕上げる事ができると思いますが。

マニフェストはご承知の通り普通は選挙の際に提示するものですが、平時のマニフェストを埼玉県志木市でつくった例がある。

平成十六年度

青山同窓会総会

昨年七月九日(金)、青山同窓会総会がホテル新潟を会場に開催されました。

総会では、長谷川会長の議長

の元、会計等の議事が進行しました。今年の議事には、特別にグラウンドの夜間照明設置の案件がありました。

(詳細は今号のグラウンド照明灯)

後輩の現役生に頑張つて欲しいという思いでしょうか、議案に意義を唱える人もなく、満場一致大きな賛成の声で採決されました。

ります。新潟は合併と政令市移行という大きな節目がありますので、マニフェストをつくる効果はさらに大きいと思います。多くの市民の皆さまに新潟市政への関心をさらにお持ちいただけるよう、内容のあるマニフェストにしていきたいと思っておりますのでさらなるご指導・ご助言をお願いいたします。ありがとうございました。

た。同窓会のあつい団結を感じたシーンでした。

鈴木正二(37回)大先輩の乾杯のあと、懇親会が始まりました。



た。今年の趣向は屋台でした。昨年度、新潟の夏を食事に盛り込んでという趣旨で、「つけなす・枝豆」を出したところ非常に好評であったというので、今年度は会場に屋台で「十全なす・枝豆・冷や奴・とろろてん」

テナー・サククスに酔いしれる

東京青山同窓会 平成十六年度総会報告

池 一 (74回)

の店を出しました。すぐになくなってしまふ物もあれば、最後まで残った物もありました(何が残ったのでしょうか)。また、前々回の総会で三味線の高橋竹秀さんが、演奏を行いました。先輩諸氏からいろいろなアドバイスをいただいていたが、たかつた。ということで、今年度、名前を本名の小林史佳(101回)に変え演奏活動を開始したということで、特別参加(演奏)をして下さいました。また、応援よろしくお願いします。



晩秋とはいえまだ暖かさの残る十一月十九日、東京全日空ホテルにて、八十余名の参加で、平成十六年度の東京青山同窓会総会が開かれた。中越地震で交通事情が悪いなか、青山同窓会から石田瑞穂副会長、校内幹事の玉木正己先生、そして小林崔校長がお見えになり、ご挨拶

いただいた、参加者一同を感激させた。若き学年幹事の橋川嘉樹くん(107回)の司会のもと、栗林貞一会長(59回)の挨拶、目下部朋子事務局長(82回)の会務報告、山根伸之会計幹事(64回)の会計報告と、第一部の総会議事は順調に進み、会務報告、会計報告は拍手で承認された。第二部は、東京青山同窓会総

会恒例のアトラクション。毎回幹事会は企画を立てるのが大変であるが、最後には、「同窓会に人はいるもの」と実感させられる。今回は、「ジャズ・ナイト」と銘打って、テナー・サクソフォン奏者の音川英二さん(87回)のライブとなった。音川さんは、高校時代は剣道部に所属する一方、ギターを弾く。学習院大学に進学後、同大学のスカイサウンズ・オーケストラでテナーサククスを手にしてメキメキ上達。ジャズ・ミュージシャンをめざし、大学を中退してボストンのパークリー音楽院へ留学した。その夜は、バンド仲間のア



コーデオオン奏者、佐藤芳明さんとのデュエット。元ジョリー・チャップスの筆者としては、めずらしい組合せに、心を躍らせる。

奏された曲は、チャプリンの不朽の名作『モダン・タイムス』のテーマ・ミュージック「スマイル」、新潟のイメージあふれる「砂浜で」、そして音川さん自作の「日本の朝焼け」の三曲だった。とくに最後の「日本の朝焼け」のジョン・コルトレーンを彷彿とさせるアドリブは、アコーディオンとの絡みもよく、冬の日本海を想わせ、ジャズと故郷との融合を堪能することができた。音川さんのグループが初めてリリースしたCDアルバム『存在』のサインセールには、列ができるほどであった。



ジャズの余韻が残るなか、学年幹事の五十嵐悠介くん(107回)の司会で第三部の懇親会へ。乾杯の音頭は、東大法学部教授で学術会議会員、法制審議会委員をつとめる政治学者の猪口孝先生(70回)。あちこちのテーブルで、年代を超えた交流の花が咲く。校歌・応援歌合唱、閉会の挨拶と進んだが、その後も歓談はやまず、もう一度締め直して、二次会の会場『日本海庄や』赤坂店へ向かった。楽しき宴であった。

平成十六年十一月二十七日(土) 大阪東急ホテルで第六回関西青山同窓会が開催されました。関西会長の京都大学名誉教授佐藤幸治氏(64回)の「今回の行政改革に携わりたいいろいろな苦労」の挨拶の後、内山準之助氏(58回)の乾杯で、なごやかに会が進行しました。会員に案内を出すのが少し遅れた、というところで今年度は残念ながら三十余名の参加者でありましたが、昨年度都合により開かれなかったこともあり、すぐに旧交を温めたり、ふるさと新潟の想い出話をしたりと、あちこちで、談笑の和ができました。新



況について報告を行いました。大学生も五名(例年ですと十名くらい)の参加があり、先輩諸氏から貴重な助言を頂いて、縦の絆を作っていました。関西青山同窓会の発足当初から事務局をしている松本和彦氏(83回)から、関西同窓会のHPを立ち上げること、そして

第六回関西青山同窓会



十一月の第四週の土曜日、場所は大阪東急ホテルで毎年開催するというのが、力強く宣言されました。

同窓の正式な組織として現在あるのは、新潟の本部・東京青山同窓会そして関西青山同窓会だけであり、近々東北・仙台でも会が発足するとか・・・。HPの立ち上げとともに、さらに同窓生(含む大学生)の多くが会に参加し、関西からも青山同窓会が発展していくことを願うだけです。

予告

東北青山同窓会(仮称) 開催の機運盛り上がる

青山同窓会は、現在本部新潟と東京、関西の三箇所で開催されています。東北大学への進学者の増加、東北電力をはじめ仙台に勤務、居住者の増加、また、東北各県に勤務、在住者の多いことから仙台で青山同窓会を開催懇親を深めたいとの声があり、本部と現地で話が進んで居ます。来春四月以降、仙台で初めての青山同窓会を開催することで現在準備中です。事務局では、110周年の名簿から東北在住者を探しております。東北在住の同窓の情報など事務局にお知らせ下さい。

【会の発展には名簿が大変な役割をします。住所等の変更があった場合は事務局に連絡をして下さるようお願いいたします】



グラウンド照明灯設置

— 現役生おおいに喜び —

十月二日メジャーリーグでイチローが年間最多安打新記録を作った記念すべき日に、新潟高校において夕方、グラウンド照明の贈呈式・点灯式が行われました。当初はグラウンドで行う予定でしたが、あいにくの雨模様で贈呈式は視聴覚教室で屋外運動部の生徒ならびに関係者が出席する中行われました。長谷川同窓会長の挨拶のあと小林校長に目録が贈呈され、校長挨拶のあと生徒代表として野球部長の本川君が「自分甘えることなく練習に励み、照明を寄贈してくれた先輩によかったと思われるよう頑張ります」と力強く感謝のことばを述べました。その後点灯式、雨なので校舎から照明を見る予定が、元気のよい部員達



照明灯設置までの経過

が雨の中グラウンドで出てくれ、元気がよくカウントダウンで点灯、前期期末調査最終日という勉強疲れ後の体調も心配されるなか、喜びを一杯にした生徒がナイターの中、グラウンドでしばらく練習をしました。各部の同窓の関係者も出席してくださり念願の照明灯点灯の喜びを全員で分かちあいました。

平成十五年秋、新役員体制初めての役員会で校内幹事よりグラウンド夜間照明灯の設置要望が上がった。会長・副会長預かりで検討した結果、設置の方向で動いていくことが決まり、校内幹事に原案作成が任せられる。吉田徳治(83回)第一電設工業(株)が設計等のよき相談相手になり、平成十五年十二

月までにおおよその原案が確定する。

平成十六年二月青山新年会前の臨時役員会で正式に原案が了承され、詳細な計画案作成にかかる。七月青山同窓会総会でグラウンド周辺自治会長への挨拶。そして九月工事着工、十月完成、十月二日贈呈式・点灯式という運びになりました。総費用千七百八十五万円は同窓会積立金より支出されました。



照明灯が設置されて、約二ヶ月が経ちました。(この原稿は十一月末に書いています) 昨年度でしたら放課後ほとんど満足な練習ができた屋外運動部の活動が、照明灯のお陰で充実した練習が展開されています。この秋は晴れた日も多く、昨年比べてこの時期、倍以上の練習できているようです。最近暖冬で、新潟市ですとグラウンドに雪が積もらない日が多くあります。照明の威力がまた発

揮するのではと思っています。そうすると、・・・「すぐ勝てるようになるのでは」・・・と欲張るところであります。勝負の世界はそう甘いものではありません。ただ、すぐに勝てるようにならなくとも、クラブ

同窓生訪問

江戸の粋を今に 横山芳郎氏(56回)を訪ねて

(会報編集委員) 岩原 朋子(93回)



今回は、二足(三足? 四足?)の草鞋履きの横山芳郎先生(56回卒)にお話をお聞きしました。

内科開業医としてのお仕事は、数年前に自ら定年を課して退職され、今は「夢職内科医(フリーのお医者さん)」、また国際ロータリーというNPOの新潟地区ガバナーを務めておられます。また江戸文物研究家として何冊もの著書があり、さらにお囃子の笛の吹き手として、新潟

が力強くなることは間違いないかと思えます。その力強さが伝統になり、そして青山同窓生の多くの方が思っている、甲子園出場が少しは早くなれば・・・と思う今日この頃です。

祭りに参加されたこともあるという、本家「遊び人」なのです。先生がこのような遊び人になられたのは、元々生まれが新潟しも(下町)で小さな時から身近なところに芸者さんがいて、いつでも三味線の音の聞こえる環境で育ったことが大きいということ。数十年前に小唄を習うようになった頃から江戸文物研究が始まり、その後、江戸囃子を吹く為に福原流の篠笛を習うなど遊びは本格的になっていきます。ここには書ききれない遊び人の楽しい話をたくさん伺いました。

そうしているうちに、遊ぶということは実はものすごく難しいことなのじゃないかと私は思いました。遊びそのものに

随ちていくことなく、人生を二倍にも三倍にも活かせるような豊かな遊びは、もちろん「サムマナー」があることが大前提だとしても、人生を楽しむ余裕や自尊心や思いやりが大切で(遊ぶ場所とか種類が問題なのではない)、今私たちに必要なのはそういう心意気なのでしょう。粋とは何か。ひたすらに一筋に働いて財力・名誉・地位が得られたとしても、死んでしまえば何も残らない。だったらそんなものとは無関係に「きりつ」とやりたいことをやって生きる。それが粋というもののようです。

江戸の「粋」は、今よりもっと人の死が身近であった為に人間性が研ぎ澄まされた結果、生れた考え方もかもしれません。限りある命を無理矢理に引き伸ばすのではなく、楽しんで何倍にも膨らませる生き方「江戸の粋」が新潟でもっと育って浸透することを先生は願っているようです。

横山先生の江戸文物を紹介しているHPアドレスは <http://www.2s.biglobe.ne.jp/~edmedic/> 著書「邦楽の歩んできた道」「水のめ医、がまんせ医ーやぶ医者闘病記」「江戸の華」など

校歌・応援歌 2

応援歌について

旧職員 関根 彰圓 (59 回)

応援歌は正しく伝承されている。楽譜もなしにである。応援団の努力であろう。勿論応援団長の好みでアレグロに走ったり、アンダンテに落着いたり、揺らぎはある。百周年に際して音楽部と同窓職員によって、テープが作られ(後にCD)応援歌のオタマジャクシが、譜面を泳いだ。

しかしその文言は正しく理解されていない所も間々ある。例をあげよう。

応援歌 A

裏日本の海に満ち
西に弥彦の峰を負う
理想の光仰ぎつつ
南山城下の独壇場

捧ぐる紫旗の影清く
鎧袖一触何かあらん

(解説)

南山城下の独壇場

南山―終南山の略称。長安(西安)の南に在る。終南山が永久に崩れない事から事業が未永く続くこと。(大修館進漢和辞典 P144、角川最新漢和辞典 P138)

擅―セン：ほしいままにす

る。自分の思いどおりにふるまう。(大修館 P384、角川 P342)

壇―ダン：①土を高く盛り上げた祭場。②専門家たちの社会。ななま。(角川)

独壇場―ひとり舞台。その人だけが勝手にふるまえる。思のままに活動できる場所。(擅を壇に書くのは誤り)また、人の長命を祝うことば。(角川 P138)

南山不落―終南山のように永久に崩壊しないの意。城などの堅固なこと。(大修館 P144)

旧制校歌の原詞をもとめて

前号で旧制校歌の原詞保存版の企画で掲載したところ、入力ミス等があり執筆者の関根先生はじめ多くの方々にご迷惑をおかけしました。51回の歌川先輩からも詳しくご指摘いただき、その校歌にかけるご熱意に打たれました。そこで、諸先輩

の皆様にお願ひがあります。昭和十五年の第四十七回卒業写真(旧制校歌の写っている写真)をお持ちの方は事務局までお知らせ

同期会報告

62 回生・卒業五十周年記念同期会

原詞保存版といたしたいと思ひます。よろしく願ひします。(木村編集委員)

河野 開 (62 回)

去る九月二十六日メルパルクで開いた。五十周年記念に「祝? 古希」東京オリンピック・新潟地震・新幹線開業の四十周年という節目の年になったが、中越大地震でさらに忘れられない同期会となった。我等は生涯二度も大地震に遭った。

七十才を前に、流石にリタイア組も多かったが、バリバリの現役組も多く、その顔ぶれを見ると、我が62回生は多士済々である。

恩師はいろんな都合が重なって望月彰先生お一人だったが、八十八名「女子六名」が集まった。元氣印ばかりだが中にはかなり人相が変わった者もいた。年不相応に黒髪もいるが、磯幸次郎大校長の渾名「電気ダコ」を彷彿させる頭もあつたりして、「一瞬「誰だっけ」と思う

永井梓は読売新聞東京本社専務・論説委員・副主筆で、夕刊に十七年間も「よみうり寸評」を書き続けている。帆刈宏典も絵と文をよくし、金沢で文化人として著名で大学の講師をしているが、文人墨客と言えば、青木留蔵、水原秋桜子の流れを汲む「俳句の会」椽の会の事務局長を努める。胃癌を切っても益々酒がすすむ大西浩介も同人です。

蘇って昔話に花が咲いた。四日市から来た田中昭夫に「第八回松山国体の帰り、選手団と別れて、浅草でストリップ見たえな」と言われるが記憶にない。海馬を動員しても思い出せない事もある

時の人は上原明。新潟商工会議所会頭・県連合会議所会頭として、災害復興と県財政のために大活躍して泉田県政を支えている。元氣印では「俺が病氣するわけがない」と豪語する柗山純の健康の秘訣は立川総合病院メデ

カルセンターの田村康二が山梨医科大学教授時代によく出演した「ミノモンタのおもいつきりテレビ」でいうとおりのお食生活をしているお陰と言う。

翌日は恒例のゴルフコンペを中峯ゴルフ場で開催。優勝は同期会事務長の加藤美明が初優勝。レッスンプロに授業料を払った甲斐があった。準優勝は中央病院外科部長の丸田有吉。中峯ゴルフ場はホームグラウンド。新潟勢が上位を占めた。

柗山は水泳部のOBだが、他に永井梓・堀口忠五・河野開の四人は毎夏の水浴「閑屋浜・曾我廻家の会」を年間の最大のイベント・楽しみにしている。常連には田村貫次郎・高野与一郎。もう十五年も毎年、海での交遊が続いている。

卒業以来、半世紀、夫々の道程は決して平坦ではなかつただろうに。みんな嬉々として元氣滲刺だったのが嬉しい。無事、是名馬という。兵「つわもの」達の集いは終わった。明日という日がないわけでは無いが、同期会は毎年やろうという声があがっ



ルから高齢者へと変わった「老人海洋団」がテトラポット上で遊んでる光景は天下の奇観です。老人達と海です。

た。 医食同源。良い生活習慣を守って、みんな元氣で次回は足の立つ者は全員集合だ。

晩秋の熱海一泊・箱根周遊の旅

赤羽 良樹・相墨 直彦 (63回)

昭和二十九年(一九五四)四月四日午前三時、不審火により新潟高校二代目の伝統ある校舎が全焼した。

我々は、当時三年生で修学旅行の京都見学後、奈良の旅館でこの悲しい知らせを聞き、その後、急遽、大阪から北陸線へ中止し、熱海一泊・箱根周遊を帰った。あれから五〇年。平



成十六年(二〇〇四)を記念し、有志あい集い、この卒業五〇周年記念旅行が企画された。

今回の旅は十月十八日、新潟組十一名は、新幹線で東京駅に着き、東京組二十七名と合流、さらに、快速アクティで熱海駅に着いた。澄み渡る快晴の中を駅にほど近い志ほみや旅館前の尾崎紅葉筆塚と句碑をみたあと、徒歩二十分の起雲閣を見学。さらに海岸まで歩いて十五分、金色夜叉で有名になったお宮の松、貫一お宮の像で記念撮影。

伊豆山にある本日の宿、トラビュニについて。早速、露天風呂で旅の疲れを癒し、宴会では逝去された先生と同期三十六名を偲び黙祷を捧げた。ご招待した三人の先生のご挨拶、牧君の乾杯の音頭、自己紹介の一分間トーク、早川君が送ってくれた地酒二本分の冷酒が旨いと好評だった。ビール、燗酒とアルコールがまわるにつれ青春時代に突入し、時を忘れ、飲み且つ語り合った。白髪まじりの頭でも高校時代に戻ったようである。最

後に威勢のよいマドンナの三本でしめた。

次に横山先生をはじめ十五名ほどで無料のカラオケでは、新潟ブルースに始まり、鐘の鳴る丘、高校三年生、唱歌、と盛り上がり、共通して知っている歌は大合唱となり、特にマドンナのいる部屋は一番賑やかで、懐かしい歌が次々と出た。各部屋では学生時代の思い出や、近況を語り合い、碁盤を囲む腕自慢もいた。

翌朝、台風二十三号の前兆で雨。十時発の箱根観光周遊バスに三十三名が乗る。ロープウェイで十国峠にのぼり、箱根峠では富士山の七合目から上が姿を現し、車内は歓声に包まれた。芦ノ湖の双胴船で箱根園に着く。昼食後、海水淡水の各水族

館を見学。霧の大涌谷を経て、四時間半の終着、小田原駅に着き、東海道線と小田急線組に分かれ流れ解散となった。

(参加者) 横山貞雄先生(数学) 小黒英作(体育) 飯利雄一先生(物理) 赤羽良樹、阿部聰、安藤翼、五十嵐信一郎、五十嵐(相原) 房子、和泉(佐藤) 修治、入山章男、片山宏一、川崎了二、北村寿一、佐藤浩、菅原一郎、関守二、相墨直彦、高木研三、高橋昌生、竹山行三、武内敏男、津久井保、土屋信之、長坂俊輔、長谷川正勝、羽入義郎、彦坂道通、平野恒夫、牧壮、三宅(長谷川) 桂子、村山弘義、山崎土四郎、山田恵一、山田益也、山本弘司、吉田昌生、若穂園広志、和田和男。以上三十八名。

67期卒業四十五周年記念同期会開催

記念同期会幹事 菅沼 重登 (67回)

あの忌まわしい中越地震から一ヶ月が過ぎました。報告にあり同じ新潟県に住む者として一日も早い復興を願うものであります。

記念同期会は六月二十六日万代島にオープンしたホテル日航新潟で開催しました。同期八十名と三名の先生(遠藤久雄、小



況、心境、思い出など)を書いてもらいコメント集を作ることになりました。コメントから判明したことはかなりの方が自分の道を見つげ悠々自適の人生を始めていたことでした。福岡に定住した大塚君はアドベンチャーマラソン(サハラ、ゴビ、アタカマ、南極)に挑戦中で既にサハラ、ゴビは完走し六月にはチハラのアタカマ砂漠を走破する計画とのこと。松戸の大高君は男声合唱団でアメリカ各地を公演し、カーネギーにも出演とか。それぞれ夢のある老後の第一歩を踏み出しているなど感嘆しました。七十七歳になられた遠藤先生からのコメントにはハットするものを感じました。先生の六十代はかねてからの夢を追いかけ中国・日本の古典の地を歴訪した感動の人生、七十代は思いもかけなかった病との闘いの人生。どう生きていくか今のうちに考えていたほうがいいよとの我々への論じでした。六十代半ばに指しかかった我々は誰しも生き生きとしたこれからの人生を望みます。そのためには

田一彦、宮路正樹各先生)をお迎えし大変賑やかで楽しい一時を過ごしました。四十五年振りの方もいてなかなか思い出せない場面もありました。遠方では北は北海道、南は鹿児島から駆けつけてくれました。今回の同期会は参加・不参加にかかわらず返送のハガキにコメント(近



特別寄稿

遠泳

丸山 幹男 (51回)

仲間との交流が大切で、特に上下関係もなく、利害関係もない幼なじみの同期の友との交流は大きな精神の癒しになるそうです。これからも仲間との交流を大切にしたいものだと思います。

今回のコメント集はハガキを戴いた不参加の方にも送らせていただきましたが、良い物を送ってくれたとお礼の寄付が集まりお陰で記念同期会の決算を黒字で終えることができましたし、併せて青山同窓会への新規加入者を十八名増やすことができたこと同窓会から喜ばれたことを申し添え報告を終わります。

会報七十五号の大黒善弥さんの「青山水友会」の中に北村博繁先生の御名前を拝見し余りの懐かしさに筆を執りました。私が小学校五年の時に新潟市には市内の小学校を対象とした遠泳とゆう行事がありました。それは寄居浜沖から日和山沖の間を泳ぐのですが、速さは関係なく二時間以上泳ぐと表彰状が頂けます。最高五時間で、遊泳距離は表彰状に記入されます。

渚には双眼鏡を持った先生が要所々々監視し、亦児童に混って多くの先生が泳いでいます。児童一人に先生が一人ついていて様々重厚な警戒です。

大会の写真を見ますと約百三十名の人が写っています。児童は六十名位で九名の女生徒の姿もあります。

五年生の時に遠泳に出る様に言はれ、皆と一緒に寄居浜から泳ぎ始め、日和山沖で反転した頃から首から肩にかけて疲労感が出て来ました。周囲に人影がなくなり、何か海の中に引き込まれる様な気になり、俺は五年生だから二時間泳げば良いそろそろ上がろうと思つた時先生が近づいて来られたのです。

記憶が曖昧ですが、十隻程の伝馬船が飲み水とお握りそれを葉等を積んで海上を警戒し

北村先生は御顔は存じ上げておりましたが御話は伺つた事ありませんでしたが「お、丸山!! 頑張っているな」

「はいもう疲れたので上がろうと思います」

「お、そうかようやった」

とおっしゃってそのまま私の脇を私の動きに合わせて泳ぎ出されました。それから十分か二十分たつて「どうだ上がるか」と言はれた時、さつき迄あれ丈痛かつた肩が軽くなつており、何だかまだ三十分や一時間は泳げる様な気になり、「いやもう少し泳ぎます」と返事をする

「お、そうか無理は駄目だぞ、上がり度ければ陸の先生が伝馬船に手を振ればすぐ上がるからね」と言はれて離れて行かれました。私はそれから二時間程泳ぎ四時間の表彰状を頂く事ができました。

先生の来られる前あれ丈あつた疲労感が魔法が解けた様に無くなったのです。私は其の時人間は励ましや叱声、ましてや命令で動くものではなく共に行動する事によって力が出るという

「中学生きらきら短歌」という催しが毎年新潟市の「NEX T21」で開かれてきた。催しのサブタイトル「子どもの言葉が光る街」がいい。この催しは新

事をおわつた訳です。私は実社会に出て常に部下には作業内容の説明はしますが命令した事はなく同一行動をしました。それから平成六年小学校の同年会で来賓として出席された先生に五十七年振りに御会います事が出来ました。其の時私は七十才でしたので先生は八十九才の筈でしたが私には七十才後半にしか見えませんでした。其の時は余り御話はされずニコニコされておられました。本来無口の方だった様です。

「きらきら短歌」の九年

永井 梓 (62回)

先生の御気づきではなかったでしょうが、小学校五年生の時僅か十分か二十分然も海の中で御一緒に、何の才能も無い私が率先力行とゆう処世術の真髓を授かった為、大過なく今日迄来られたのです。

先生は平成十二年二月十三日に九十五才で天寿を全うされています。

その念願が果たされたことを証明するように今回の催しには、九年前の第一回入選作の一つが特別展示された。「お豆と麩(ふ)」どっちが大きい麩がかいでも本当はね豆がかいぞ」市立上山中二年、中野大輔君の作品。豆と麩と、思

「お、丸山!! 頑張っているな」

年の入学、新潟高校に入学した女生徒としては二期目の一人だ。「きらきら短歌」の歩みに共感し、一端を紹介する。

中学の国語教師を長くつとめた石見さんは退職後にこの催しを企画した。市内の中学生に呼びかけて短歌を募り、秀作五十首を墨書にしてパネルに展示する。最初の応募は八百数十首ほどだったが九回目になる二〇〇四年(平成十六年)の応募は二〇〇四首に上っている。毎年のこと、中学生の歌は飾り気がなく正直な表現がいい。「この健康さを失うことなく、表

現することの喜びを感じ、心豊かに成長してほしい」というのが石見さんら選者たちの願いだ。



「きらきら短歌」は地味な催しだが、受験用の国語教育なんぞではない。日本人の血脈に生きていく五七のリズムを使い、中学生の言葉と心、みずみずしい感性を豊かにする助けを果たしてきた。石見さんは今回を最終回として催しを締めくくりたいという。事情もあるが、できるならもつと続けてほしい。

せたこの歌、一風変わっているが、選者たちはよくぞ選んだものと今にして思う。ユーモアがあり力強い。自分は今はこんなだが、空に向かって伸びるすごい力があるんだぞと、中野君は歌っている。その中野大輔少年は九年後の昨年アテネオリンピックの金メダリストに成長していた。体操男子団体を制した日本チームの輝かしい一員である。中野少年のすばらしい成長の歳月は「きらきら短歌」九年の歩みとそのまますなつていく。石見勝子さんには中野選手がガッツポーズが「豆がかいぞ」のあの歌に重なって見えた。金メダルはきらきら短歌への大きなプレゼントにも思えた。中野少年ばかりではなく、当時のほかの子たちもそれぞれ道で成長し、活躍しているだろうと思つた。

『初恋』から五十年

北村 市郎 (64回)

昭和二十九年四月四日未明発生した火災により母校は灰燼と帰した。東体育館とわずかばかりの付属した建造物を残して。ただちに同窓会・PTAを柱として「復興期成会」が組織され校舎再建に向けて活動を開始するとともに、「母の会」が結成されて復興資金募集に向けて動き出すなど、校舎再建に向けた動きは極めて迅速であった。

二十ヶ月におよぶ練習と公演は関わりをもった仲間の中に深い感慨と仄かな胸の痛みを残して

私は当時二年生。所属する演劇部では相原房子(三年)の選定により、村山知義作「初恋」を演目として決定し、六月初めから練習に入った。家長中心の旧家族制度への批判に立ち、父子の相互理解と家族間の愛情に基づ



終わった。だれいうとなく、「十年後に再会しよう」。その約束は果たされた。その十数年後に

そして

平成十六年七月三十一日

この日、東映ホテルで、「初恋」五十年目の集いが開催された。参加者十二名。

ほろ苦い酔いに身をまかせながら、色褪せつつある心象風景画を修復しあった数時間であつ

「青山68会作品展」を終えて

若松 昌弘 (68回)

九月十九日正午、三時間余

りかかった展示作業が全部終わり会場を見回した皆が一応に「思ったよりも良い作品が集まったね」という声が上がった。

昭和三十五年卒業した同期生で作る「青山68会」で「作品展」を開こうと、話が持ち上がった。

今年二月に青山同窓会の新年会終了後、同期生だけで二次会を開いた。その席上「I君が水彩画の個展を開いた」「C君がグループ展に出品していた」「亡くなったM君が蝶の標本を沢山持っていた」「T君が写真展で入選していた」・・・など話題が趣味の話になった。それだつ

た。当時の舞台写真写真を眺めると鬼籍に入られた仲間五名。不参加者からも心情溢れる便りが届いた。次の会は何時にしようか。

参加者 宮本輝夫(62回) 横田美昭・宇南山晴子・中村輝一(63回) 川崎明・小松保・鈴木厚生・北村市郎(64回) 西マサ子・石崎隆司(65回) 中山幸・遠藤京子(中央高OG)(旧姓)

た同期生の作品展を開こう！とアルコールの力も手伝って参加者全員が賛成した。

簡単に作品展開催を決めたのはよいけれども、何時・何処で誰が責任をもって準備・実行するのか？「皆が手伝うからお前やれや」と言われ、私が一応責任者となつて作品展開催の準備にとりかかる。会場は誰でも分かる所。日程は新潟で開く「青山68会のゴルフ会」に合わせる。更に気候の良い時などを考慮した。その結果、県民会館の展示コーナーを会場に、九月二十三日の秋分の日を中心に日程も決定。同期生には三月二十二日、北村泰作会長からメールと葉書

で一斉に連絡してもらおう。出品作品は「絵画・写真・陶芸・工芸・模型・工芸・短歌・和歌・俳句・収集品・・・」思いつく作品は何でも可。また、出品者は「同期生とその家族」と、全く大雑把な案内である。

さて、これからが大変だった。同窓会総会当日(七月九日)現在で出品者は十人前後、作品数もわずか。そこで同期生の動向に詳しい田中宣男君や渡辺洋子さんそれに東京で幹事をしてる鈴木裕徳君らが出品しようとする同期生達に強力に出品を依頼する。その結果展示作業日には、出品者は二十五人(県外在住者七人と故人一人で、男女別では男性二十人・女性五人)となった。また、恩師松澤昭然先生・長谷川義明同窓会長が特別出品された。作品の数も六十八点にも達し会場が狭く感じられる有様。さらに卒業後三十年目、四十年目の同期会の記録写真も展示。出品作品は卒業以来四十四年、大半が現役を退き、それぞれの道を歩んでいる証を表していた。出品しなかつた同期生たちも展示・撤去作業に参加して、出品者と同じような気持ちになつたという。いづれにしてもただ過ぎ去つた過去を懐かしむだけでなく、お互いにこれからの生活の参考になつたのではないかと



次回開催する際は今回出品されなかつた同期生からも是非とも出品してもらいたいと思う。

最後に会場にお出でいただいた方々に厚くお礼申し上げます。「青山68会」のホームページ(<http://www.kitamurass.co.jp/~aoyama68>)に作品展の様子を掲載しております。(ご覧下さい。)

OB 会 報 告

青山区友会の集い

中川 弘 (58 回)

「体操日本の復活」団体総合金メダルの栄冠をかちとったアテネオリンピックは、暑い夏と共に幕を閉じた。おめでとございませう。全国の体操ファンの熱烈な支援である。

十月十日第十八回青山区友会は今も開かれた。今回は48回の佐藤素一様の卒業以来何十年振りの初参加に、会はもりあがる。物故者の黙祷のあと、各自近況を一言づつ発言する。体操をやったよかつたとは、どなたも共通する言葉であった。体操



とは体を操ると書く。全てのスポーツの基礎は体操にある。特に器械体操は、バランスと筋肉の訓練にはもってこいである。後輩と先輩との結びつき、「どうだ」「元気か」「はい」「元気で」「先輩もお元気です」との

何げない会話の中に、何十年前の体操部の生活が一瞬よみがえるから不思議である。新潟は昔から体操名門県として、自負し、二十世紀初頭、全米体操競技選手権大会に、ハーバード大学の主将として活躍したのは旧制新潟中学から遊学した真島中太郎さんである。氏は明治三十三年三月卒第七回卒と同窓会名簿には記されている。県体操界の先祖である。その子が51回土田卯八郎氏と同期で、中太郎氏の写真が回覧された。すばらしい先祖がいたものである。彼から後輩へと、ひきつがれて青山区友会が始まるのである。のむにつれ「こんなこともあった」「あんな事もあった」「そうそう」話に華が咲く。人生の幸福の一瞬である。いいなあ先輩、

ありがとうございませう。さだまさしの元気でいるか。友達でできたか。金あるかの歌にも似た心境である。体操を愛し体操を通じて、いかに多くの事を学んだことか。同志、先輩、後輩との人間関係、部活の良さはここにあるのだらう。この会のいつまでもの盛会を祈り散会した。

山岳部創立五〇周年 記念祝賀会

阿部 紋衛 (78 回)

昨日の出席者(敬称略) 水野信二郎(48回) 望月影(48回) 佐藤素一(48回) 板谷啓司(51回) 土田卯八郎(51回) 渋谷興司(53回) 渋谷登(55回) 青山昭郎(55回) 中川弘(58回) 川上忠男(59回) 中野文郎(59回) 磯部博(73回) 本間義康(79回) の十三名であった。

昨年八月十四日、万代シルバホテルで創立五〇周年を祝う祝賀パーティーが開催された。新旧顧問をはじめお世話になった先生八名とOB七三名が参加した。石田瑞穂会長(67回卒)の開会の挨拶の後、現顧問の竹内先生へ記念品を贈呈して現役の近況報告を受けた。小林光衛氏(63回卒)の音頭で物故者への献杯をした後、飯塚良彦先生による乾杯で祝宴が始まった。山岳部OB会は十年前にも創立四〇周年を祝ったが、この種の集まりはそれ以来とあって、遠方からの参加者も多く、久々の再会に時を忘れて語り合った。卒業年次ごとの近況報告を受ける頃には宴会も最高潮に達して会場は溢れんばかりの

熱気に包まれた。現役時代に応援団長を務めた柳野秀樹(71回卒)、山際岩雄(76回卒) 両氏の音頭で『丈夫』我はふくろう』を高くかに歌い、十年後の再会を約束して散会した。なお役員交代も承認され、新会長は馬場泰氏(74回卒)、事務局は石沢浩氏(79回卒)と本間大策氏(83回卒) が務める。

五〇周年を祝おうという声があり、具体的な方向性が出たのは、二〇〇三年九月初旬に巻機山で開かれた現役・OB交流山行の際であった。第一はOB諸氏の名簿の整備 第二は五〇周年記念誌『ふくろう』の発行、第三は祝賀会の開催と目的を以上三点とした。早速、実行委員会を作り準備に入った。

平成五年に作成した名簿を基に、現住所の確認と記念誌の原稿を依頼した。半世紀に渡る部活動に参加したOBは名簿に掲載しただけで二七〇余名。顧問の先生やお世話になった先生は一八名で、残念なことだが土岐倉科、吉副先生は逝去されていた。



卒業してからも山登りを続ける人はいらるが、大半は仕事や家庭が中心になる。子育てが一段落し、「中・高年の山登り」を始めるOBも現役時代のようなハードな山登りから、自然を楽しむ登山へとスタイルを変えている。自ずと記念誌の内容も、現役時代の思い出や近況などを綴ったものが多くなる。

三〇年前、四〇年前の出来事は遠くセピア色の映画の一場面になった観がある。記念誌『ふくろう』の原稿を書き、刷り上げた文章を読み、祝賀パーティーでの会話から、ようやく点から線へと繋がったかに思える。

新潟高校山岳部の歴史を伝えるために記念誌『ふくろう』の資料編から一部抜粋する。

○新潟日報九九年七月「若い力輝いて 県高体連の半世紀登山編」の特集は小林(光)の活動を伝える。小林は嶺(昭和二十九年卒)とともに我が山岳部草創のメンバーで、その後鶴翔山岳部で活躍し、昭和四〇年ころまで長く我が山岳部の指導に当たってその礎を築いた功労者。この間、加藤清策や前掲の石黒久ら岳人を生み育てた。その後、小林は勤務する高校山岳部の指導に当たり、中央高校

山岳部をして県総体で優勝一九回、全国優秀校六回を達成する。日報はこの活動を伝える一方、当時支配的であった高校登山の競技的な学校対抗方式に、「山登りそのものが競技ではない」と懐疑を抱く藤田善思先生のコメントも掲載する。確かに、山に登る営みが競技になじむかど

青山ソフトテニスクラブ 事業計画・活動状況

当クラブは、会員相互の親睦を深め、心身の健全な発達を図り、ソフトテニス界の向上発展に寄与すると共に母校ソフトテニス部(当部)を援助し、強化育成に努めることと目的とする。

主な事業計画は①名簿の作成②会報の発行③会員親睦大会の開催④早朝ソフトテニス⑤市民大会等市協会・県連大会等の参加⑥母校ソフトテニス部の強化助成である。▼狭山市国体(十月二十三〜二十七日)で青山勢活躍。当部村山歩が小島侑衣(長岡商)と組んで少年女子の部に出場、健闘した。同行のコーチとして、猪俣惇(当部顧問)津野誠司(88回)・柳(田村)直子(94回)が参加し競技力向上に努めた。当年度当部員の成

うか、およそ競争の要素を含むものかどうか。

中略

いずれにしても、藤田先生の思索と小林の活動とに、新潟高校山岳部の幅の広さを感じる事ができる。

以下略、敬称略

績は、これまで県外大会出場権を逸してきたものの、猪俣惇阿部浩治両顧問・石崎和美コーチの指導のもと全員で着実に練習に精進してきた成果であり二順目新潟国体開催に向けて当部の一層の伸展が期待される。

▼春季市民クラブ対抗(六月十三日)に当クラブ6部に優勝。そのほか秋季クラブ対抗(九月二三日)ソフトテニスの日市民大会(十月十日)に出場、善戦した。メンバーは山崎一正(78回)小菅洋司(94回)和栗暢生(95回)上村顕也(101回)丹羽貴之(102回)田辺武志(103回)の輝けるつわもの達である。▼会員親睦大会(八月一日・大安)は、先輩後輩の区別なく気軽に参加できるよう配慮して開催。会員相互の思わぬ出会いに

モラルも高揚、親睦大会にふさわしい楽しい大会となった。特にソフトテニスの趣味を極めようとしている富岡郁夫・吉井貴志(106回)永野順子(111回)のひたむきな姿勢には感動の至りである。

▼総会は、関屋田町「力寿司」で開催、十五年度決算を承認し、文殊の知恵を結集して十六年度予算(事業計画)を策定した。懇親会は、当会の発展を祈念し、「庭練・銘水・抱負・盛上」とばかり乾杯し懇談した。▼日曜日は早朝ソフトテニス。陽光を浴びてさわやかに会心の一打のイメージを想起して、白球を追う。健康のありがたみを感じる至福のひとつである。ソフトテニスは日本で生まれ育つたスポーツ。明治十七年の発祥からすでに百年を超え、小学生から



七五歳以上の高齢者まで約百万人以上の愛好者を誇る。各位の気楽な参加を期待します。連絡先… 新潟市関屋田町一八〇 小山功気付青山ソフトテニスクラブ 事務局(平林功三・小山功) 電話・FAX… 0251-2651-4416 メール syosankou@paw.hiho.ne.jp

四季の新中水泳部(1)

大黒 善彌(50回)

若い頃旧制新潟高校準寮歌として好んで歌はれた“四季の新潟”という歌がある。

春：春はうらうら日和山

夏：夏は涼風天の川

秋：秋は稲穂の信濃川

冬：冬は雁木につもる雪

この歌になぞらえ、新潟中学校水泳部の四季折々のことどもにつき遠い昔おぼろな記憶を辿り記して見る。

春はうらうら日和山と歌はれるうららかな春四月、赤線帽に憧れ難関?を突破した新入生がやって来る、この頃は各運動部そろって勧誘・デモンストレーションに懸命になる。水泳部ではプールに清冽な水を張り、少し冷たく寒いのを堪えて、部員一同水中鬼ごっこや、いとも楽しげにキレイな泳ぎを披露した

り、又プールにあった大きな櫛板にロープをつけ、四・五年生がかかるがわるに乗り、一・二・三年生にロープを引いてプールサイドを廻って走らせ水上スキーの真似事を楽しむ等で新入生の気をひく。これにつられて後に地獄の苦しみが待つのも知らず十名あまりの新入部員がやって来て先ず「あづき湯」で歓迎会、この歓迎「あづき湯」は一・二・三年生が、海岸の砂浜や、牛小屋の窪地と言われた所へ水・あづき餡・薪等々の必要品を運び、新入生は全くのお客様である。私が入った年は新入生五人と少なく、特別優しく扱われた。しかし何時までも楽しんで居れず五月からはどんなに寒い日でも泳ぐ?泳がされる?泳ぎ始めて間もなく記録会があり各人自己記録を確認し、その年の目標をたてる。又五月中旬頃新入生には始めてのプール掃除があ

る、授業を終えプールへ行くところ、昨日までの青緑に濁った水が無くなり、プールが非常に大きく見え、底に庭球コートから飛んで来た砂泥、側壁には苔か水垢か緑?暗褐色の物がへばりついて居る。これらが晩春初夏の強い日差しに暖められて何とも言いようのないムット胸につかる悪臭に思わず嘔気をもよおす。この瘴気にも似た空気に満ちた50m×13m×1.2mのコンクリートの箱を三十余名の部員がさらし粉とデッキブラシで磨くわけで、一・二・三年がそれぞれ受け持ち区域をブラシで磨き、四・五年生がバケツで水を撒き流すこと約三時間見違える程綺麗になつて、苦勞の甲斐があつた事を喜び、御褒美に饅頭を頂く、饅頭のへぎを囲み「一年生前え二つ取れ、下がれ。二年生前え二つ取れと。順繰りに饅頭が無くなる迄、時に二個、時に四個頂く。春から夏に移る間に梅雨が来る、プールサイドのニセアカシアは馥郁たる芳香を放つが部室の中はジメジメと湿り、湿つて汚れたバスタオルも異臭を放つ中で休憩を取りながら寒さを堪え泳ぐ、壁には「試合に泣くな、練習に泣け」と大書した檄文が張つてあり、試合に関係ない一・二年生はただ泣くばかり。やがて梅雨もあけ、一学期

事務局より

新潟中越地震、三条 7・13 水害に遭われました同窓関係の方々に事務局よりつつしんでお見舞い申し上げます。

また、その後の復興においてあちこちで活躍している同窓諸氏がいると聞き、さすが青山・丈夫であると感じているところです。

現役生も 11 月に 2 日間、県庁での救援物資の整理のボランティアに出かけて来ました。

みなさんで、1 日も早い復興のために頑張りましょう！

以下のような電話があったと事務局に年に数件、問い合わせがあります。くれぐれもご注意ください。

悪質商法

「新潟高校の同窓会から紹介を受けた 〇〇 さんです」という旨の内容で電話をかけて物品を売る商法、また女性が若い男性（会員）を誘いだすなどのデート商法があります。

個人情報について

「同窓会の事務局ですが、名簿の整理で 〇〇 さんの携帯番号を教えてください。」という電話をかけ、個人情報を手に入れようとするグループがあるようです。

事務局ではそのようなことは一切行っていませんし、もしそのような電話がありましたら、「こちらからかけ直しますから電話番号を教えてください」と相手に問いただして下さい。

寄付行為について

「同窓会ですが、あなたは 〇〇 周年の寄付をまだ払い込んでいません、至急払い込んで下さい」という電話もあるようです。ご注意ください。

事務局では外部からの同窓生の住所・電話番号の問い合わせには一切答えていません。いままでに発行された名簿を見て、電話をかけてくるものと予想されます。名簿をお持ちの方は名簿の取り扱いにくれぐれもご注意ください。

同窓会報：原稿の字数のお願い

会報編集委員会では、寄稿頂いた原稿は原則としてそのまま会報に載せることにしています。しかし、字数が多くなりますと、紙面の都合上そのまま載せることが難しくなります。編集委員会で原稿に手をいれてカットすることもできません。そこで、原稿の字数ですが、是非 800 字から 1000 字の間で書いて下さるようお願いいたします。

**平成 16 年度
青山同窓会会費納入者**

(5 月中旬より 9 月末日まで納入のもの)
未納の方は 3 月までに納入して下さるようお願いいたします。

1 口 1,000 円。なるべく 2 口以上でお願いします。

納入先：郵便振替口座
00650 - 7 - 4455 青山同窓会

32 回 14 年 曾我英彦	池田正昭	40 回 S 8 年 会田俊雄	金子清
33 回 T 15 年 長谷川友康 山添三郎	小林三郎	上野道隆	高橋正彦
34 回 S 2 年 江部保治 相馬真蔵	近藤仁一 関屋俊彦	倉田浩吉 倉田親典	高橋正彦
35 回 S 3 年 尾崎三夫	高野政夫 竹石三男	小山賢市 後藤久功	高橋正彦
36 回 S 4 年 石橋健男 風間忠雄	田村勇作 中村実	齋藤久穂 高田信川	高橋正彦
37 回 S 5 年 阿部広雄 猪坂三郎	渡辺義平 出塚浩一	池主憲 中村年夫	高橋正彦
38 回 S 6 年 鈴木正二 田中正二	大野賢二 鎌田輝虎	湯浅市作 渡辺信雄	高橋正彦
	佐藤平八 佐藤正一	浅田鋪一 阿部久二	高橋正彦
	野沢正三 宮村定三	五十嵐富郎 伊藤一雄	高橋正彦
	野末武夫	今成準次 上原喜八郎	高橋正彦

前田隆英	斉藤伸雄	古川敏雄	若井欣一郎	飯塚正雄
森山敏雄	高尾健一	本間泰輔	47 回 S 15 年	五十嵐皓太
43 回 S 11 年	錦織登美夫	円山哲四郎	青山信一	伊藤正太郎
阿坂英夫	西山尚三	丸山泰雄	朝日翠	江口正喜
市橋敏雄	早川廣吉	山際昌介	石垣邦武	大坂保男
伊藤和男	平原芳郎	綿井兵衛	伊藤元司	大谷一男
小野寺裕	星野圭	渡辺節夫	岩谷又武	榎木基
鍵富馨	峯木鉄夫	46 回 S 14 年	岡村茂	北村英朗
加藤行輝	宮川一郎	安沢惣平	小田宏治	小池清泰
菊池芳雄	宮沢正彦	福野藤三郎	金子淳	佐藤忠一郎
木口正雄	山根俊英	江口松弘	木村和郎	杉山静也
笹川謙	45 回 S 13 年	大津任	倉井整	杉山静也
佐藤繁	石原八十秋	鍵富春雄	黒川一男	鈴木勇宏
佐野真一	扇嘉家	片桐英一	寺嶋鴻	諏訪宏
高橋一久	小原稔	金子政太郎	齋藤暗太郎	高松利男
滝沢義雄	笠原義春	熊谷大輔	清水善夫	土田節也
田中憲司	柏崎賢太郎	栗原道樹	菅井隆一	東城次郎
富所正巴	金井明義	佐藤正勇	杉山正彦	中村英治
浜田昌栄	小島平弥	菅原一房	高梨正夫	中村英治
早船春洋	酒井敏行	関慧夫	鳥居俊夫	中山眞努
丸山五郎	坂爪力	近沢一	中野忠雄	廣瀬五夫
森田正雄	三宮慶雄	榑一郎	中村正秀	真嶋明
山際正雄	渋谷芳二	手島恵昭	新津義雄	水戸正彰
山谷隆二	志村俊洋	富所強哉	藤田三之助	望月正
渡部一郎	清野睦男	原泰三	丸山鏡治	八木正
渡辺千尋	滝澤久衛	馬場吉衛	森村美寛	山崎修吉
44 回 S 12 年	知野正男	樋浦幸喜	宗川善次	吉澤宏英
池井元之助	寺山恒夫	福島弘	山際政次	渡辺銀作
今井仁	中村國夫	藤巻貴	吉田富忠	49 回 S 17 年
遠藤健一	中山仁	堀川良平	吉田六郎	赤松元敏
小原康作	長北小弥太	本田富雄	秋元俊明	飯島三良
金子一夫	橋本良材	山田市男	天田孝平	池田眞吾
小池寿哉	長谷川渙	横山隆二	飯田大透	池田純一
小泉大三	長谷川健次郎	米原進		
近藤芳生	治雅樹			

て一時の衰退を経て、20 世紀以降は舞台芸術として受け継がれています。
この踊りで表現されるのは、ヒンドゥーの神々へ神話や、神々への帰依の想いです。そしてその帰依の想いを通して日常の喜び、感謝、願いなどが表現されており、それらは、豊かな顔の表情、手指のジェスチャー、力強いステップなどによって表現されます。

演目

ブシュパンジャリ・シュローカム・アラリブ
ブシュパンジャリは、神様にお花を捧げる踊りで、通常舞台は神に花を捧げるところからスタートします。続くシュローカムは、この踊りの神様である「ナタラジャ」の姿を表現します。最後のアラリブは神様・師匠・そして観客に対して踊ることの許可をいただくという意味がこめられます。

ジャティスワラム

ジャティスワラムは、ストーリー性は無く、様々なステップが、いろいろなリズムに乗せて踊られます。この踊り独特の動きが見どころです。

キルタナム

キルタナムというのは、先に歌として歌い継がれてきたものに、振りがつけられた踊りです。このキルタナムは、ラーマヤナの主人公であるラーマへの帰依の想いが歌われています。「ラーマヤナ」という大変有名な物語の主人公であるラーマは、ヒンドゥー 3 大神の一つであるビシュヌ神の 7 番目の化身であるといわれており、神様として信仰されています。

ストーリー :

ティヤガラジャは、ラーマに深く帰依しており、毎日毎日ラーマの像を前に祈りを欠かさなかった。しかしティヤガラジャの兄はそれを疎ましく思い、ラーマの像を川に投げ捨ててしまいます。像を失ったティヤガラジャは悲しみのあまり、川に身を投げてしまいますが、その川の中でラーマの像を見つけ、ティヤガラジャは嬉しくて歌いだします。

第 1 部 : 「ラーマ ! あなたの姿を見つけた。私自身の目を通して。それはまるで天国にでもいるように幸せな気分だ。」

第 2 部 : 太陽帝国と呼ばれる国の王子として、ラーマは生まれた。

子宝に恵まれなかった王が、儀式を行い、その火の中から現れた神より授けられたアムリタ (聖蜜) を飲みラーマを授かったというエピソードが描かれる。続いて、成長したラーマ王子は、これまで誰も持ち上げる事の出来なかったという弓を易々と持ち上げ、それを構えると、その弓はなんと折れてしまった。そしてそれを見た隣国の王が、自分の娘のシータをラーマの嫁にする事を決

めた、というエピソードが表現されます。

第 3 部 : ラーマの二人の兄、そしてハヌマーンもラーマの帰依者となりましょう、と言います。サルの王であるスグリワも彼らに続きます。

ティヤガラジャは、彼らを称え、そして祈ります。

キルタナム

もう一つ、ラーマヤナを題材にしたキルタナムをご覧ください。

歌は、詩のように綴られます。

第一部 : 神々への祈り。

神々のストーリー

邪悪なものを退治する、

太陽帝国の王子ラーマ

第 2 部 : 王の中の王、太陽帝国の子供

端正な容姿、弓を鍛錬する姿

その名は、ラーマ

第 3 部 : プランマー、純粋で崇高な存在

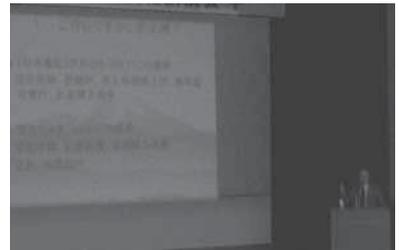
ジャーナカに与えられた、シヴァ弓は

折られてしまう

破壊されたランカ島を救う

すべての聖者を導くビシュヌ神

小林 昌二さん ▶



◀ 渡辺 忠明さん



▼ 岡村 知子さん ▶



全国、いや世界中で多くの同窓生が活躍しております。今後も様々な分野の方々においでいただき、活動の一端をご披露いただきたいと思います。こんな方の話を聞きたい、活動の様子を知りたい、という情報を同窓会事務局までどしどしお寄せください。

- (資源化の技術)
- (循環を支えるパートナーシップ社会の形成)
- 自然がはぐくむ心と力
- (自然と心身)
- (エコツーリズムの発展)
- (自然エネルギー等の活用)

環境と経済の好循環が実現した 2025 年の将来像

(環境と経済の好循環ビジョン～健やかで美しく豊かな環境先進国へ向けて～(平成 16 年 5 月中央環境審議会答申)の抜粋)

1. 日本の経済社会

(環境に強い関心をもつ消費者と技術力が生み出す所得と雇用)

環境に配慮して商品・サービスを選ぶことが当たり前という環境志向の消費が、新しい市場や既存市場の高付加価値化を生み出します。家電、日用品、食品から金融、小売りに至るまで、現在以上に激化する国内外の競争を生き抜くためには他とは何か違う良さが必要で、その「何か」として、環境に配慮する消費者への訴求力や技術力が重要な役割を果たしています。事業者は、このような市場の動きに呼応して環境を良くする技術を次々に開発し、消費者のニーズに応える商品・サービスを供給して、新しい職場を提供します。

このような雇用機会に、若い人達はもちろん、高齢になっても健康で社会に貢献する職場を求める人々も積極的に参加し、所得を得ています。消費者の環境への関心を身近なところから呼び起こし、これにきめ細かく応える地域に根ざしたビジネスも増えました。

(資源が循環しエネルギー効率の高い社会)

地球環境、廃棄物問題や自然環境の保全について、多くの人々が危惧し、改善に向けて具体的な行動をとっています。途上国をはじめとする世界の経済が拡大し人口も増える中で、資源・エネルギーの確保もより難しくなっています。このため、省資源、省エネルギーが、財・サービスが顧客に選択される上で重要な要素になりました。エネルギー分野では、自然エネルギーのコストが下がって普及すると同時に、水素の生産、流通、利用の技術開発と基盤整備が進んで、水素エネルギー社会が実現しつつあります。同時に、製造業、流通業も含めた多くの産業で「静脈産業」と「動脈産業」とが融合したネットワークが生まれ、資源が循環しながら価値を生み出しています。経済発展が環境汚染を伴った時代はとうに終わり、今は、天然資源の消費を増やさないよう努めることが、経済発展の原動力になっています。

(サービス産業と環境)

経済の中でサービスが大きな部分を占めるようになりました。例えば、高齢化が進んだ日本では、余暇関連や高齢者・健康関連のサービス業が大きな割合を占めるようになり、その中でも特に自然

が有する価値を積極的に事業の中で活かす業態が盛んになっています。

商品そのものの販売に代えて商品の機能をサービスとして提供する事業形態や、商品の販売に加えてそのオペレーションやメンテナンスも同時に行う事業形態が広がり、くらしや製造過程からの環境負荷低減に貢献しています。省エネ診断・改善等や家庭のエネルギー管理サービスが、環境負荷を減らしています。環境効率の悪い商品を薄利で売る代わりに中古品をレンタルする事業も発達して、生産するのは高い環境技術を活かした物だけになりました。

(人と環境にやさしい交通)

従来の低公害車は誰でも乗る車になり、燃料電池車の普及が進んでいます。安全で利用しやすい交通システムが整備され、鉄道、バスや船の利用割合が増え、空気がきれいになりました。バリアフリーが進み車椅子やベビーカーの使用も容易になるとともに、健康への意識の高まりもあって自転車や徒歩での外出が増えています。

(環境と経済の好循環)

環境を良くする方法が良いものであればあるほど、ビジネスの中で経済的に報われるようになっていたため、より良い方法や工夫を生み出す知恵が環境の分野に集まっています。その結果、日本の生み出す製品や事業形態、政策などの環境保全上の性能がなお一層良いものとなり、これらが経済的にますます成功を収めるという好循環が起きています。こうして、高齢化が進み活力が失われると心配されていた 2025 年の日本は、環境への配慮を原動力とした豊かさを実現しています。

通常と比較してより環境に配慮した製品や事業形態(環境誘発型ビジネス)の市場は日本のみならず外国にも広がり、2025 年の日本には 100 兆円以上の市場と、200 万人以上の雇用を生み出しています。

日本の姿や人々の暮らしも変わりました。都市でも農村でも、それぞれの風情があるたたずまいを見せる美しい環境の中で、地域の特徴を生かしたまちづくりが進みました。日本の至る所で個性豊かな地域に活力が生み出され、地域の間に行き来も活発になりました。

「南インド・タミルインド古典舞踊

バラタナティヤム」

岡村 知子さん

バラタナティヤムとは

南インド・タミル地方においてヒンドゥー寺院に仕える“デーヴァーダーシ”と呼ばれる巫女が神々に奉納する舞踊として発祥しました。「文献に残る世界最古の踊り」と言われています。寺院の中だけの閉ざされ舞踊は、華やかな宮廷舞踊、そし

地下に沈降した可能性がきわめて高いのです。従来は、河川乱流の激変河口地帯として認識する不可知論が主流でした。

- 2) 加治川村青田遺跡の発見は、水田 = 旧塩津潟湖底から縄文晩期集落跡や九世紀遺跡・遺物が出土し、九世紀に陥没して潟湖ができて、その沈んだ遺跡の発見であったのです。
- 3) 沼垂城木簡の発見は、淳足柵 = 旧沼垂町 = 山ノ下(王瀬)所在を強く示唆しました。
- 4) 平成 12 ~ 15 年度学術振興会科学研究費補助金基盤 A「前近代の潟湖河川交通と遺跡立地の地域史的研究」が採択された。浅層地質学の高濱信行(72 回卒業)と共同で地質調査の方法を借りて遺跡発見を行おうとするものでした。
- 5) 淳足柵 ~ 沼垂城(磐舟柵 ~ 石船柵)の遺跡発見は、仙台市郡山遺跡や多賀城遺跡、あるいは九州太宰府遺跡に匹敵する遺構・遺跡が期待できるし、学術上に計り知れない知見をもたらすものと考えていますし、世界遺産を展望できるものと思います。

5 何がどこまで分かったか

—まとめにかえて—

ボーリングと地震調査用ジオスライサーによる調査は、次のことを明らかにしました。

- 1) JR 貨物臨港線廃線下の調査から、第三砂丘列の当初の形成は、5000 年前の沼沢火山灰の河川堆積を線路下 - 2.1 ~ - 1.8 m で確認し、従来の古墳時代説や室町時代説を克服できました。
- 2) また同線路下で - 3 ~ - 5 m のところで 50 ~ 20 cm の旧表土層を発見した。その土壤同位元素半減期による C 14 年代測定で 1180 年 ± 30 年という年代データが得られています。より正確には土器などの遺物収集による年代確定が必要でしたが、まだ得られていません。
- 3) この土壤のプラントオパール、花粉分析、珪藻分析の結果、この土層が稲作水田跡であることが確認されました。上のデータと合わせると平安時代を遡る時代の水田耕作と耕作者の集落の近いことなどその様相が推測できるところとなりました。
- 4) こうして沼垂城・淳足柵に迫るべき土層をとらえつつあること、そしてこの地層の広がりはいづかかに未発見の遺跡が眠っていると考えられるところにきたというのが到達点と考えています。未発見・埋没遺跡の調査発見方法の探求と、その実験的・先駆的な調査例とであることに間違いはないが、しかしまだ途中にあって成功をしてはいない現状も冷厳に理解しておく必要があります。
- 5) 古代史の専門分野から見たときに、まだ未発見ながら淳足柵・磐舟柵が同時計画の内水面でつながる兄弟の柵であるとの新見解を切り開きました。柵の計画は、皇極元年(642)「越辺蝦

夷数千内附」記事が起点であり、斉明朝の阿倍比羅夫北征に及ぶ一連の長い過程と理解でき、蝦夷部族間対立を軸にした新たな理解を導いています。また高志深江国造の存在は、この地域のみならず新潟の意義と価値とをよく示しています。

講演 2

「環境は経済発展の足枷か」

渡辺 忠明さん

北海道庁時代の経験(昭和 45 ~ 48 年)

- 1. 大雪山縦貫道路の経済効果と自然環境の価値
- 2. サロベツ原野の国立公園指定

尾瀬の国立公園管理官時代(昭和 48, 49 年)

大石環境庁長官による車道建設中止のその後
屋久島の身の丈にあった島興し(鹿児島県環境管理課長として、昭和 62 ~ 平成 2 年)

屋久島環境文化村構想

自動車の排ガス規制と日本車の性能向上、世界市場制覇

世界一厳しかった公害規制のクリアの副産物としての燃費向上等の性能アップ、その結果としての世界の自動車市場の制覇

地球環境問題と持続可能な開発(発展)

Our Common Future(昭和 62 年)環境と開発に関する世界委員会報告書

地球サミット(平成 4 年)環境と開発に関するリオ宣言

持続可能な開発: 将来世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発

環境と経済の関係の最近の動向

- 1. なぜ、環境と経済の好循環か
- 2. 好循環への方向と課題
- (1) 好循環実現への基盤
好循環をつくる人々
(環境に対する価値観と需要をつくる消費者)
(資金をつくる投資家)
(商品、サービス、人をつくる事業者、教育機関)
(コミュニティをつくる行政、民間団体)
循環の実現に向けた課題
(市場が環境配慮に向かうために)
(好循環を呼び起こす環境情報)
(好循環を呼び起こす人づくり)
- (2) 今から始められる好循環への歩み
暮らしを彩る環境のわざ
(日本発の最先端環境商品)
第三次産業で生きる環境のわざ)
(わざを後押しする環境志向の消費者)
(革新的技術に対する戦略的な対応)
「もったいない」が生み出す資源
(ゴミの発生抑制と資源化)
(ゴミの発生を減らす事業形態)

平成 16 年度青山学術文化講演会 開催報告

幹事長 小崎 弘一

新潟高校同窓生で、各界で活躍しておられる方々から、有意義なお話をいただき、一般にも公開し、関心ある市民に、学術文化に触れる場を提供する、という目的で、今回初めて企画開催いたしました。10月9日(土)13:30~新潟高校視聴覚教室に200名余の参加をいただきました。

講演者と演題は下記のとおりです。

- 小林昌二さん 69 回卒
新潟大学人文学部教授
「沼垂城木簡とみなと新潟のルーツ」
- 渡辺忠明さん 73 回卒
環境庁~(株)建設環境研究所
「環境は経済発展の足枷か」
- 岡村知子さん 97 回卒
インド舞踊教室主宰

会は長谷川義明会長の挨拶で始まり、まず小林昌二さんが講演されました。小林さんと渡辺さんのお話の概要と、岡村さんの演目をご紹介します。

講演 1

「沼垂城木簡と、港新潟のルーツ」

小林昌二さん

1 はじめに

みなと新潟のルーツがどこにあるのか、あのトキメッセをどのように理解したらよいのか、現代に生きる私たちは、今この時の郷土の歴史的な時代をどのようにとらえ、未来に結びつけたらよいのか。

本日のお話は、そうした問題の解答や結論ではなく、日本古代史という文系学術の夢を語らせてもらい、上述の問題への広がりを含みとっていただき、各位のご関心に生かしていただくことにあります。

2 古代文献と考古学的発掘調査の成果

1) 考古学の古墳時代研究は、甘粕健(みなとびあ館長)の研究などによって、越後平野は、弥生に続く前期古墳の時代に、能登や会津を結び畿内古代王権に連携する地域の地位にあったことなどが明らかとなり、最近ではその古墳時代が、弥生後期の高地性集落や環濠集落の存在形態から、倭国大乱の及んでいた地域としての発展の様相をもつことが知られるようになってきています。

2) 港新潟のルーツというと、大化3年(647)

の淳足柵の設置、延喜式(927)に見える蒲原津、あるいは天文20年(1551)「ニイカタノワタリ」の文献記事が利用されます。それはそれで沼垂や蒲原、新潟を現状のように別に見なす見方ですが、河口地帯は一衣帯水の一つの世界でもありましたから両岸・対岸を一つにとらえる見方が必要です。

3) その支配者として文献で史上に初めて名を成したのは高志深江国造(「国造本紀」・『先代旧事本紀』)でした。偽書と疑われた記載でしたが、1995年平城京二条大路から出土した木簡に、「越後国沼足郡深江×」と墨書された付け札がありました。天平八年(736)頃のもので、これまで全く知られていなかった「深江郷」の名称があったのです。またこれに先立つ1990年には三島郡八幡林遺跡から「蒲原郡青海郷高志君大虫」や「火急使高志君五百嶋」など、高志深江国造とつながる一族の存在が知られました。高志深江とは、まさしく沼垂・蒲原・後の新潟が囲む信濃川・阿賀野川の河口地帯の地名であり、この土地の豪族が、六世紀代に大和王権によってその地名を冠した国造に任じられたことが確かになりました。港新潟のルーツは高志深江に始まると考えたいのです。

4) こうしてみますと、大化3年(647)の淳足柵の設置は、この豪族の支配領域の中に大和の直轄支配を持ち込むものでした。たんに蝦夷征服の最前線基地の建設という理解ではすまない。地方豪族の下に直轄支配の基地を置くことは屯倉を置くことにつながるし、後の国司による支配の先駆の要素もある。地方の政治勢力が、大和の中央集権支配に吸収され、秩序づけられる端緒とも言えるようです。

3 未発見遺跡

= 淳足柵から(越後城)そして沼垂城へ
1990年八幡林遺跡「沼垂城」墨書木簡の画期的な発見

- 1) 「淳足柵」設置・・・『日本書紀』大化三年(647)
- 2) 「越後城」・・・慶雲二年(705)威奈大村骨蔵器銘文
- 3) 「沼垂城」・・・木簡 養老年号(717~724)を伴う
- 4) 「磐舟柵」設置(648) 石船柵(698/700)

4 未発見遺跡の調査とその意義

1) 淳足柵が未発見遺跡というだけではなく、その七世紀代の遺跡・遺物を、また磐舟柵とその周辺においてもほとんど発見できていません。